

9つの医療機関が集結 地域における 役割や課題を議論

2017年11月14日、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会（とよひら・りんく）は「平成29年度地域医療構想シンポジウム」を札幌市内で開催、160人を超える医療・介護関係者が参加した。

北海道保健福祉部地域医療課の小川善之課長が登壇し、地域医療構想の概要や北海道での状況、行政としての支援について解説した。9医療機関の理事長・院長らによるシンポジウムでは、

地域医療構想を踏まえた各医療機関の現状や課題、将来像について議論。課題として、地域医療機能推進機構北海道病院の古家乾院長は「地域医療構想に対する住民の理解不足」、柏葉脳神経外科病院の金子貞男理事長は「独居高齢者の在宅復帰」を指摘し、札幌ライラック病院の本

庄恭輔院長は「在宅医療にかかわる人材不足」を挙げた。

今後について、華岡青洲記念心臓血管クリニックの華岡慶一理事長は「地域医療連携推進法人への期待」、小坂病院の小坂昌宏院長は「介護医療院への転換の可能性」を言及。最後に、座長を務めた社会医療法人恵和会の西澤寛俊理事長が「病院が集まる部会のような場でも、さらなる議論を深めたい」と締めくくった。



通称「とよひら・りんく」は2011年に発足。多職種での連携強化を目的に開催
<http://www.toyohiralink.jp/>